

ApsaraDB for RDS

クイックスタート (SQL Server)

クイックスタート (SQL Server)

機能制限

SQL Server の RDS は、ライセンスを伴うインスタンスのみを提供します。インスタンスが作成されると、Microsoft SQL Server Enterprise Edition のライセンスが付与され、ユーザーからの BYOL はサポートされません。さらに、インスタンスの安定性とセキュリティを保証するために、SQL Server には次の制限があります。

SQL Server 2008 R2 の機能制限

オペレーション	制限
データベースの作成	1つのインスタンスに対して最大 50 のデータベースが許可されます。
アカウントの作成	データベースには最大 500 個のアカウントが許可されます。
通常のアカウント	カスタム認証は許可されていません。
アカウントとデータベースの管理	アカウントとデータベースは、RDS コンソールを使用してのみ管理できます。
その他	使用できない機能には、分散トランザクションコントローラ、Windows ドメインアカウントログオン、電子メール、BI 分析、レポート、データベースレベルの DDL トリガ (テーブルの変更、テーブルの作成、インデックスの追加と削除、その他の DDL ステートメントが含まれます) ブローカ、SQL Server プロファイラ、データベース最適化アドバイザー、コピー、ポリシー管理、プロキシの開始/停止。
ネットワーク設定	インスタンスのアクセスモードが安全な接続モードである場合、SNAT モードで net.ipv4.tcp_timestamps を有効にすることはできません。

SQL Server 2012 およびそれ以降のバージョンの機能制限

使用できない機能には、分散トランザクションコントローラ、Windows ドメインアカウントログオン、電

子メール、BI 分析、レポート作成、アセンブリ、Service Broker、コピー、ポリシー管理、およびプロキシの開始/停止などがあります。

SQL Server 2012 とそれ以降のバージョンの違いを 2008 R2 と比較した場合における制限

SQL Server 2008 R2 と比較して、SQL Server 2012 およびそれ以降のバージョンでは機能制限が少なくなっています。機能の変更点は次のとおりです。

1つのインスタンスのデータベース数を制限しないでください。

1つのインスタンスのデータベースアカウント数を制限しないでください。

カスタム認可をサポートします。

RDS コンソールからアカウントおよびデータベース管理インターフェイスを削除します。このような管理タスクは、コードまたは DMS を使用してのみ実行できます。

コンソールの代わりに T-SQL コマンドを使用して、データベースの作成、変更、および削除を行います。

コンソールの代わりに T-SQL コマンドを使用して、LOGIN の作成、変更、および削除を行います。

SQL Server Profiler とデータベース最適化アドバイザーウィザードをサポートします。

データベースレベルの DDL トリガーをサポートします。

ApsaraDB の概要

クイックスタートの目的

このドキュメントでは、RDSインスタンスの購入から使用までの手順を説明します。また、RDSインスタンスでApsaraDBを作成する基本的な設定と、インスタンスデータベースへの接続方法について詳しく説明します。

ターゲットリーダー

ApsaraDB for RDSインスタンスを初めて購入したユーザー。

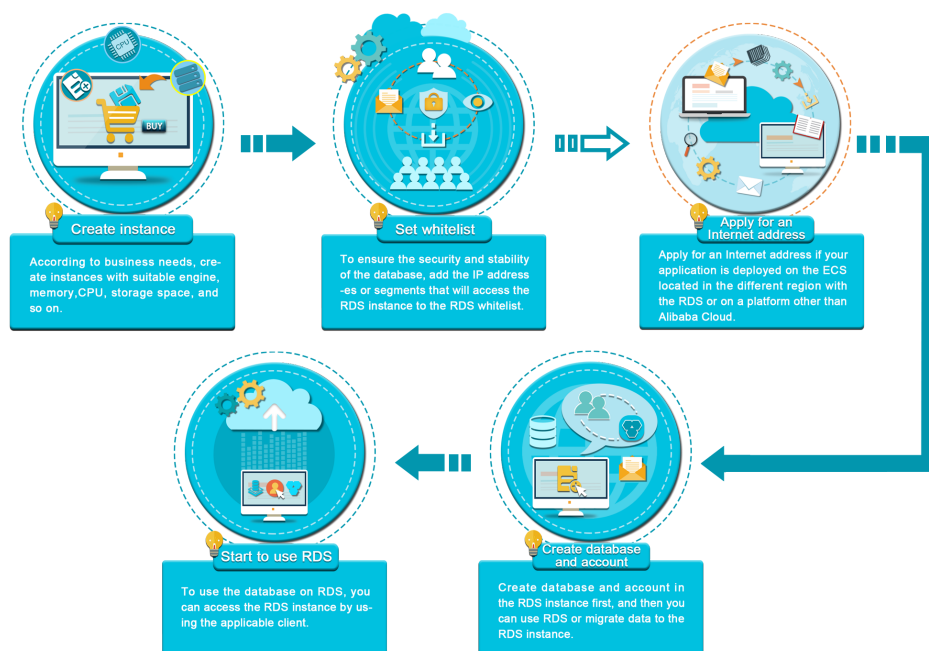
作成したインスタンスの基本設定を実行する必要があるユーザー。

ApsaraDB for RDSインスタンスに接続する方法を知りたいユーザー。

クイックスタートフローチャート

初めてAlibaba Cloud ApsaraDBをRDSに使用する場合は、「ApsaraDB for RDSの制限事項」と「ApsaraDB for RDSコンソール」を参照してください。

次の図は、インスタンスの作成から使用までの手順の説明になります。



インスタンスの作成

Alibaba Cloud ApsaraDB for RDS コンソールまたは API を使用して、ApsaraDB for RDS インスタンスを作成できます。インスタンスプルーシングの詳細については、「ApsaraDB for RDS の価格設定」を参照してください。このドキュメントでは、ApsaraDB for RDS コンソールを使用してインスタンスを作成する方法について説明します。API を使用してインスタンスを作成する方法の詳細については、「RDS インスタンス

スの作成」を参照してください。

前提条件

Alibaba Cloud アカウントに登録済みであること。

操作手順

RDS コンソールにログインします。

インスタンスリスト ページで、**インスタンスの作成** をクリックして、**インスタンスの作成** ページに入ります。

サブスクリプション または **従量課金** を選択してください。課金方法の詳細については、**価格の説明** を参照してください。

インスタンス構成を選択します。パラメータは次のように記述されます。

基本設定

リージョンとゾーン：選択リージョンとインスタンスが配置されているゾーン。単一のゾーンまたはマルチゾーンをサポートするリージョンもあれば、単一のゾーンのみをサポートするリージョンもあります。詳細については **リージョンとゾーン** を参照してください。

注：異なる地域の製品はイントラネットを介して相互に通信することはできず、インスタンスを購入した後でインスタンス領域を変更することはできません。そのため、リージョン選択するときは注意してください。

データベースエンジン：RDS は、MySQL、SQL Server、PostgreSQL、および PPAS をサポートします。異なる地域では、異なるデータベースタイプがサポートされています。このドキュメントを使用する場合は、実際のインターフェイスを参照してください。

バージョン：データベースのバージョン。現在、RDS は MySQL 5.6、SQL Server 2008 R2、および PostgreSQL 9.4 をサポートしています。異なる地域で異なるデータベースのバージョンがサポートされています。このドキュメントを使用する場合は、実際のインターフェイスを参照してください。

MySQL データベースの場合、MySQL 5.6 を選択することをお勧めします。これは、データファイルの占有スペースを大幅に削減してストレージコストを削減できる TokuDB ストレージエンジンをサポートするためです。

SQL Server 2008 R2 および SQL Server 2012 (日本サイトでは未提供)では、さまざまな機能がサポートされています。詳細は SQL Server 2008 R2 と SQL Server 2012 の機能の違いを参照してください。

シリーズ：RDS インスタンスは、Basic Edition、High Availability Edition、および Finance Edition をサポートします。異なるデータベースバージョンは異なるシリーズをサポートします。このドキュメントを使用する場合は、実際のインターフェイスを参照してください。

ネットワークタイプ：RDS は従来のネットワークと仮想プライベートクラウド (VPC) をサポートします。あらかじめ VPC を作成する必要があります。また、インスタンスの作成後にネットワークタイプを変更することもできます。詳細は、ネットワークタイプの設定を参照してください。

タイプ：インスタンスが占有する CPU およびメモリ。接続数と最大 IOPS (読み書きの場合はそれぞれ測定され、混合読み書きの場合はベンチマークの最大 2 倍) は、タイプによって異なります。インスタンスタイプの詳細については、インスタンスタイプ一覧を参照してください。

ストレージ：ストレージスペースには、データ、システムファイル、bin ログファイル、およびトランザクションファイル用のスペースが含まれています。

サブスクリプション期間：サブスクリプションインスタンスの期間を設定します。

数量：購入する同じ構成のインスタンスの数。

今すぐ購入 をクリックして **注文の確認** ページに入ります。

[サービス利用規約とサービスレベル通知に同意します] の横にあるチェックボックスをオンにしてから：

インスタンスの請求方法がサブスクリプションの場合は、**支払い** をクリックします。

インスタンスの請求方法が従量課金の場合は、**有効化** をクリックします。

初期設定

ホワイトリストの設定

ホワイトリストは、指定されたIPアドレスおよび特定のIPセグメントへのアクセスを制限するために使用されます。ホワイトリストが設定されていない限り、データベースインスタンスにアクセスすることはできません。RDSのセキュリティを維持するために、要件に応じてホワイトリストを定期的を確認して調整することをお勧めします。この章では、主にホワイトリストを設定する方法を紹介します。

背景

イントラネット、インターネット、またはイントラネットとインターネットの両方を介してRDSインスタンスにアクセスできます。各接続タイプ（イントラネットとインターネット）の適用シナリオの詳細については、イントラネットアドレスとインターネットアドレスの設定を参照してください。

接続タイプを設定する前に、アプリケーションサービスのIPアドレスまたはIPセグメントまたはECSインスタンスをRDSインスタンスのホワイトリストに追加する必要があります。ホワイトリストが設定されると、システムは自動的にRDSインスタンスのイントラネットアドレスを生成します。インターネットアドレスが必要な場合は、インターネットアドレスの申請の詳細な手順を参照してください。

注意：アプリケーションサービスのIPアドレスをホワイトリストに追加した後にRDSインスタンスに接続できない場合は、アプリケーションサービスの実際のIPアドレスを取得する必要があります。

注意

システムは、新しく作成したRDSインスタンスごとに**デフォルトホワイトリストグループ**を自動的に作成します。この**デフォルトホワイトリストグループ**は、変更または消去のみできますが、削除することはできません。

新しく作成されたRDSインスタンスごとに、ローカルループバックIPアドレス127.0.0.1がデフォルトの**ホワイトリストグループ**にデフォルトで追加されます。これは、すべてのIPアドレスまたはIPセグメントがこのRDSインスタンスにアクセスすることを禁止されていることを意味します。したがって、他のIPアドレスまたはIPセグメントをRDSホワイトリストに追加する前に、まず**デフォルトホワイトリストグループ**から127.0.0.1を削除する必要があります。

%または0.0.0.0/0は、IPアドレスがRDSインスタンスへのアクセスを許可されていることを示します。この構成では、データベースのセキュリティが大幅に低下するため、お勧めしません。

操作手順

[RDSコンソール]にログオンします。

選択リージョンターゲット・インスタンスが配置されている場所。

ターゲットインスタンスの名前をクリックすると、**基本情報**ページに移動します。

左側のナビゲーションバーで **セキュリティコントロール** を選択して **セキュリティコントロール** ページにアクセスしてください。

ホワイトリスト設定 タブページで、**デフォルトホワイトリストグループの変更** をクリックします（次の図を参照）。

注意： カスタムホワイトリストグループをRDSインスタンスに追加する場合は、**デフォルトホワイトリストグループのクリア** をクリックして、IPアドレス127.0.0.1を最初に削除してから、**ホワイトリストグループを追加** をクリックします。カスタムホワイトリストの設定手順は、次の手順と似ています。

| セキュリティコントロール

ホワイトリストの設定	SSL
+ ホワイトリストグループを追加 ⓘ	
= default	
変更 クリア	
127.0.0.1	

注意: IP ホワイトリストは、0.0.0.0/0 を指定するとすべてのアクセスを許可してしまいます。また、127.0.0.1 アドレスを指定すると、このアドレス以外の外部アクセスを拒否することができます。 [ホワイトリスト設定の説明](#)

グループの変更 ページで、**ホワイトリストフィールド** のRDSインスタンスにアクセスするIPアドレスまたはIPセグメントを追加します。ECSイントラネットIPアドレスを追加する必要がある場合は、次の図に示すように、[**ECSイントラネットIPアドレスのアップロード**] をクリックし、プロンプトに従ってIPアドレスを選択します。

グループを変更する ×

グループ名:

default

ホワイトリスト:

127.0.0.1

ECS の IP アドレスをアップロード

最大のホワイトリスト数 999

コンマ区切りの IP アドレス (例: 192.168.0.1,192.168.0.2)
[ローカル IP を取得する方法](#)

The whitelist takes effect in 1 minute.

OK

キャンセル

パラメータの説明：

グループ名：小文字、数字またはアンダースコアを含む2～32文字を含むことができます。グループ名は、小文字で始まり、文字または数字で終わらなければなりません。この名前は、ホワイトリストグループが正常に作成されたときは変更できません。

ホワイトリスト：RDSインスタンスにアクセスできるカスタムIPアドレスまたはIPセグメントを入力できます。

- 10.10.10.0/24などのIPセグメントを入力すると、10.10.10.Xという形式のIPアドレスがRDSインスタンスにアクセスできることを示します。

複数のIPアドレスまたはIPセグメントを入力する必要がある場合は、192.168.0.1,172.16.213.9など、コンマ(,)で区切ります（空白を追加しないでください）。

- ホワイトリストグループごとに、MySQL、PostgreSQLインスタンスに対して最大1,000のIPアドレスまたはIPセグメントを設定できます。SQL Serverインスタンスには最大800まで設定できます。

ECSイントラネットIPアドレスのアップロード：このボタンをクリックすると、ECSイントラネットIPアドレスを追加する簡単な方法である、RDSインスタンスと同じアカウントのECSインスタンスのイントラネットIPアドレスを選択できます。1. **OK** をクリックします。

ホワイトリストグループの変更または削除

ビジネス要件に応じて、ホワイトリストグループを変更または削除することができます。詳細な操作手順は次のとおりです。

RDSコンソールにログオンします。

選択リージョンターゲット・インスタンスが配置されている場所。

ターゲットインスタンスの名前をクリックすると、**基本情報**ページに移動します。

左側のナビゲーションバーで **セキュリティコントロール** を選択して **セキュリティコントロール** ページにアクセスしてください。

ホワイトリストの**設定**タブページで、対象のホワイトリストグループの**変更**または**削除**をクリックします。

IPアドレスまたはIPセグメントを変更したら、**[OK]** をクリックします。または、削除するホワイトリストグループであることを確認する場合は、**[確認]** をクリックします。

インターネットアドレスの申請

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じネットワークタイプを持つ場合、インターネットアドレスは必要ありません。アプリケーションのデプロイ先の ECS が、RDS インスタンスと異なるリージョン内にあるか、RDS インスタンスと異なるネットワークタイプを持つ場合、または、アプリケーションが Alibaba Cloud 以外のプラットフォームにデプロイされる場合、RDS インスタンスにアクセスするにはインターネットアドレスが必要です。

注意: 同じリージョンにあるインスタンスはイントラネット経由で互いに通信できます (ゾーンは異なってもかまいません)。

背景情報

RDS では、イントラネットアドレスとインターネットアドレスを介した接続が利用できます。接続モードとインスタンスタイプにより、接続アドレスの選択は次のような違いがあります。

インスタンスシリーズ	インスタンスバージョ	アクセスモード	接続アドレス
------------	------------	---------	--------

	ン		
HA デュアルノードエディション	- MySQL 5.5/5.6 - SQL Server 2008 R2 - PostgreSQL 9.4 - PPAS 9.3	標準モード	- イン트라ネットアドレス - インターネットアドレス
		安全接続モード	- イン트라ネットアドレス - インターネットアドレス - イン트라ネットアドレスとインターネットアドレス

それぞれの接続アドレスを適用できるシナリオは次のとおりです。

イントラネットアドレスのみを使用:

イントラネットアドレスはデフォルトで提供され、接続アドレスは直接変更できます。

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じネットワークタイプを持つ場合、この接続方法を適用できます。

インターネットアドレスのみを使用:

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスのリージョンと異なるリージョン内にある場合、この接続方法を適用できます。

アプリケーションが Alibaba Cloud 以外のプラットフォームにデプロイされる場合、この接続方法を適用できます。

イントラネットアドレスとインターネットアドレスを両方使用:

アプリケーションが、異なるリージョンにある複数の ECS インスタンスにデプロイされ、そのうちのある ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じネットワークタイプを持つ場合、この接続方法を適用できます。

アプリケーションのデプロイ先の ECS インスタンスが、RDS インスタンスと同じリージョン内にあり、RDS インスタンスと同じネットワークタイプを持ち、さらにアプリケーションが Alibaba Cloud 以外のプラットフォームにデプロイされる場合、この接続方法を適用できます。

注意

データベースにアクセスする前に、データベースへのアクセスに使用する IP アドレスまたは IP セグメントをホワイトリストに追加する必要があります。詳細については、「[ホワイトリストの設定](#)」を参照してください。

トラフィック料金はインターネットアドレスを使用した接続に対して発生します。価格と料金の詳細については、[RDS の料金ページ](#)を参照してください。

インターネットアドレスを使用して RDS インスタンスに接続する場合、インスタンスのセキュリティが低下する可能性があります。この方法は慎重に使用してください。伝送速度とセキュリティレベルの向上のために、アプリケーションを RDS と同じリージョンの ECS インスタンスに移行することをお勧めします。

手順

RDS コンソールにログインします。

対象のインスタンスが存在するリージョンを選択します。

対象のインスタンスの ID をクリックして、**[基本情報]** ページに移動します。

左側のナビゲーションバーで **[データベースの接続]** を選択して、**[データベースの接続]** ページに移動します。

次の図に示された **[インターネットアドレスの取得]** をクリックします。



表示された確認ウィンドウで、[OK] をクリックしてインターネットアドレスを生成します。

[**接続アドレスの変更**] をクリックし、インターネットまたはイントラネットの接続アドレスおよびポートを変更します (下図を参照)。

接続アドレスの変更

✕

接続タイプ:

イントラネットアドレ...

接続アドレス:

rm-qx2kiqd7lgikmfkwd

.mysql.rds.aliyuncs.com

アルファベットと数字で構成され、最初の文字には小文字のアルファベットを使用します。長さの範囲は 8 ~ 30 文字です。

ポート:

3306

ポート番号の範囲: 3200 ~ 3999

OK

キャンセル

パラメーターの説明:

接続タイプ: 変更する接続タイプに応じて、[イントラネットアドレス] または [インターネットアドレス] を選択します。

接続アドレス: アドレス形式は、xxx.mysql.rds.aliyuncs.com で、xxx はユーザー定義フィールドです。アドレスは、アルファベットと数字で構成された 8 ~ 64 文字で指定できます。先頭の文字は小文字のアルファベットである必要があります。

ポート: RDS が外部サービスを提供するポートの番号を指定します。[3200, 3999] の範囲の整数を指定できます。

[OK] をクリックします。

インスタンス基本設定

データベースとアカウントの作成 (SQL Server 2008 R2)

説明：SQL Server 2008 の操作手順の例を説明します。SQL Server 2008 R2 を使用する場合は、データベースとアカウントの作成 (SQL Server 2012) を参照してください。

RDS インスタンスを利用するには、データベースとアカウントの作成が必要です。SQL Server 2008 R2 の場合、RDS コンソールでデータベースとアカウントの作成が可能です。本ドキュメントは SQL Server 2008 R2 にデータベースとアカウントの作成手順を紹介します。

背景情報

1 つのインスタンスのデータベースでは、このインスタンスのすべてのリソースが共有されます。SQL Server 2008 R2 タイプのインスタンスには、最大 50 データベース、500 アカウントまで作成できます。

ローカルデータベースを RDS に移行する際は、RDS データベースとローカルデータベースで一致する移行アカウントとデータベースをそれぞれ作成する必要があります。

アカウント権限を設定する際、最小権限と業務ロールで行い、読取り専用/書込み権限を適切に設定します。必要な場合、更に区分して各アカウントは該当業務内のデータのみアクセス可能にします。書込みの必要がないアカウントには、読取り専用権限を付与します。

データベースセキュリティのため、アカウントパスワードの強度を高くし、定期的に変更します。

操作手順

[RDS コンソール] にログインします。

対象のインスタンスが存在するリージョンを選択します。

対象のインスタンスの名前をクリックして、[基本情報] ページに移動します。

左側のメニューで **アカウント管理** を選択し、[アカウント管理] ページに移動します。

アカウント作成 をクリックします。



アカウント情報を入力します。

データベースアカウント:

小文字のアルファベット、数字、アンダースコアで構成され、先頭にアルファベットを使用し、末尾にアルファベットまたは数字を使用します。使用できる文字数は最大 16 文字です。

許可済みデータベース:

未許可のデータベース	許可済みデータベース	権限	すべて設定	読み取り/書き込み
aaaaa		許可 >		
		< 削除		

一時的にデータが存在しません

***パスワード:**

長さは 8 ～ 32 文字で、大文字、小文字、数字、特殊記号の三種類以上が必要です。特殊記号には下記が含まれます: @#&%^&*(_+~!)

***パスワードの確認:**

備考:

補足を入力してください。入力できる文字数は最大 256 文字です (漢字 1 文字は 3 文字に相当します)。

最大 500 アカウントまで作成可能です

項目説明：

データベースアカウント： アカウント名、長さは 2~16 文字、小文字のアルファベット、数字、アンダースコアで構成され、先頭にアルファベットを使用し、末尾にアルファベットまたは数字を使用します。

許可済みデータベース： アカウントにアクセス許可したデータベースです。データベースが作成されてない場合、空欄で可能です。1 つのアカウントに複数のデータベースを許可することは可能です。許可手順は下記となります。

未許可のデータベース から許可するデータベースを選択します。

許可 をクリックし、**許可済みデータベース** に追加します。

各データベースに、**読み取り/書き込み** または **読み取り専用** を設定できます。全部のデータベースに同じ権限を付与する場合、**すべて 読み取り/書き込み** ま

または **すべて 読み取り専用** で設定できます。

許可済みデータベース	権限
aaaa	☒ すべて設定 読み取り/書き込み ☐ 読み取り専用

パスワード: アカウントのパスワードを指定します。パスワードは 8 ~ 32 文字で、大文字、小文字、数字、特殊文字を使用できます。パスワードには、これら 4 種類の文字のうち、3 種類以上使用する必要があります。

パスワードの確認: パスワードを再度入力して、正しいことを確認します。

備考: アカウントの説明を入力できます。最大 256 英文字まで可能です。

OK をクリックし、アカウント作成完了です。

左側のメニューで **データベース管理** を選択し、[データベース管理] ページに移動します。

データベースを作成 をクリックします。



データベース情報を入力します。

項目説明：

補足：データベースの説明を入力できます。最大 256 英文字まで可能です。

OK をクリックし、データベース作成完了です。

インスタンスへの接続

SQL Serverクライアントを使用してRDSインスタンスに接続できます。この記事では、Microsoft SQL Server Management Studio (SSMS) クライアントを例として接続手順を紹介します。

背景情報

RDS for SQL Server は SQL Server と完全に互換性があるため、同じ方法を使用してデータベースに接続できます。この記事では、SSMS クライアントを例としてRDSインスタンスに接続します。他のクライアントを使用している場合でもこの方法を参照できます。クライアント経由でRDSインスタンスに接続する場合、接続アドレスの選択を参照し、次の点を注意してください。

クライアントが同じリージョンにある ECS にインストールされ、接続する RDS インスタンスと同じネットワークタイプを使用している場合、イントラネットアドレスを使用します。

上記以外の場合はインターネットアドレスを使用します。

操作手順

RDSインスタンスにアクセスするIPアドレスをRDSホワイトリストに追加します。ホワイトリストの設定方法については、ホワイトリストの[設定](#)を参照してください。

Microsoft SQL Server Management Studioクライアントを起動します。

下記の図に示すように、接続情報を入力します。



パラメータの説明:

サーバータイプ: データベースエンジンを選択します。

サーバー名: インターネット/イントラネット アドレスとポート番号で構成されます。接

続アドレスとポート番号はカンマで区切ります（例：rm-bptest.sqlserver.rds.aliyuncs.com、3433）。次は、RDS インスタンスの接続アドレスとポート情報を表示する手順を示します。

[RDS Console] にログインします。

対象インスタンスのリージョンを選択します。

インスタンスのIDをクリックして、「**基本情報**」ページにアクセスします。

[**基本情報**] ページでは、インスタンスのインターネット/イントラネットアドレスとインターネット/イントラネットポート番号を確認できます。

基本情報		ホワイトリストの設定	移行ゾーン	↑
インスタンス ID: rm- af0000u0v0g0000	名前: rm- af0000u0v0g0000 			
インスタンスのリージョンとゾーン: Asia Pacific NE 1 (Japan)ゾーンA		インスタンスタイプ: 標準インスタンス (rds.status.category.HighAvailability)		
イントラネットアドレス	rm- af0000u0v0g0000 .mssql.japan.rds.aliyuncs.com	内部ポート	3433	
インターネットアドレス	rm- af0000u0v0g0000 .mssql.japan.rds.aliyuncs.com	外部ポート	3433	

Authentication: [**SQL Server 認証**]を選択します。

Login: RDSインスタンスの初期アカウント名を参照します。

Password: RDSインスタンスの初期アカウントのパスワードです。

[**接続**] をクリックします。

付録

付録：SQL Server 2008 R2と2012の機能の違い

SQL Server 2008 R2 と SQL Server 2012 (日本サイトでは**未提供**)では、機能と API にいくつかの相違点があります。詳細は次のとおりです。

機能の相違点

API の相違点

機能の相違点

機能	SQL Server 2008 R2	SQL Server 2012(日本サイトでは未提供)
データベースのバックアップとリカバリ	利用可能	利用可能
Anti-DDoS	利用可能	利用可能
IP ホワイトリスト	利用可能	利用可能
SQL インジェクションや総当たり攻撃のブロック	利用可能	利用可能
マスター/バックアップアーキテクチャ	利用可能	利用不可
ローカル耐障害性	利用可能	利用不可
リモート耐障害性	利用可能	利用不可
オートスケーリング	利用可能	利用可能
SSIS	利用不可	利用不可
SSAS	利用不可	利用不可
SSRS	利用不可	利用不可
Service Broker	利用不可	利用不可
分散トランザクションコントローラー (DTC)	利用不可	利用不可
サーバーへのリンク	利用不可	利用可能

API の相違点

API	インターフェイス名	SQL Server 2008 R2	SQL Server 2012(日本サイトでは未提供)
ゾーンへの移行	MigrateToOtherZone	利用可能	利用不可
イントラネットアドレスのリクエスト	SwitchDBInstanceNetType	利用可能	利用不可
インスタンスのアクセスモードの変更	ModifyDBInstanceConnectionMode	利用可能	利用不可
アカウントの作成	CreateAccount	利用可能	利用不可

データベースの作成	CreateDatabase	利用可能	利用不可
アカウントへの権限の付与	GrantAccountPrivilege	利用可能	利用不可
アカウントの権限の取り消し	RevokeAccountPrivilege	利用可能	利用不可
ファイルのアップロードアドレスの取得	CreateUploadPathForSQLServer	利用可能	利用不可
データのインポート	ImportDataForSQLServer	利用可能	利用不可
他のインスタンスへの移行	ImportDatabaseBetweenInstances	利用可能	利用不可
移行のキャンセル	CancelImport	利用可能	利用不可